

『大阪 880 万人訓練 2025』から学ぶ

- ・ 「皆さん、避難訓練どうでしたか。」今回のような地震災害の場合は、建物が歪んで扉が動かなくなり閉じ込められる可能性があるので扉などは開けたままで構いません。
- ・ 窓ガラスは割れる可能性があるので、開け閉めする必要はありません。ただし、電気は消してください。「できていましたか？」
- ・ 火災の場合は、延焼を防ぐために扉や窓は閉めることになりますので、災害によって対応が異なります。
- ・ 『大阪 880 万人訓練』は、「地震・津波発生時の情報を正しく認識し、自身の命を守る行動につなげること」を目的に実施しています。
- ・ 『大阪 880 万人訓練』の特色として、『南海トラフ巨大地震』を想定した訓練で大阪府民の携帯電話に訓練用の緊急速報メールが配信されます。
- ・ 訓練用のメールを受信したことをきっかけに、実際にとる行動を考え、また、備えについて再確認する機会となることをねらいとしています。
- ・ 『南海トラフ巨大地震』が今後 30 年以内に発生する確率は、今年の 1 月に 80%程度に引き上げられました。
- ・ 南海沖では、概ね 100 年～150 年の間隔で津波を伴う大規模災害が発生しており、前回は 1944 年に『昭和東南海地震』、1946 年に『昭和南海地震』が発生しています。
- ・ 津波を伴う大規模地震災害から約 80 年が経過したことから次の巨大地震発生の可能性が高まってきているということになります。
- ・ 地震は、いつ・どこで発生するのか分かりません。皆さんも家族で旅行に出かけたり、友だちと遊びに出かけたりと、常に阿倍野区内で生活をしているわけではありません。

- ・ 仮に、四国地方に旅行に出かけたり、近畿圏でいうと和歌山県などの太平洋側に遊びに出かけたりした場合などは、場所によっては 10m 以上の津波が想定され、今回よりも高い場所への垂直避難が必要となります。
- ・ また、家の中で大地震が発生した場合、家具が倒れてきたり、テーブルや台の上に置いてあるテレビなどの電化製品が飛んできたりするようなこともあります。
- ・ 30 年前の『阪神淡路大震災』は早朝(5：46)に発生したため、寝ている状態で家具の下敷きとなり亡くなった方が多くいました。
- ・ 皆さんの家の寝室などに倒れてくるような大きな家具や飛んできそうな電化製品などは置いていないでしょうか。
- ・ 先日、校長室の書棚の上に置いてあるテレビを管理作業員さんにお願いして固定してもらい、あわせて大きな書棚も金具で固定してもらいました。
- ・ この訓練の目的は、様々な情報をもとに、地震発生時にどのような行動をとることが必要なかを考えるとともに事前の備えについても学ばなければなりません。
- ・ 「備えあれば憂いなし」という故事（昔から伝わるいわれ）にあるように、「日頃からいざという時の準備を怠らなければ、万が一の事態が発生しても心配することはない」という意味ですが、防災・減災のためにある戒め・教訓であるように感じます。
- ・ ちなみに、今日 11 月 5 日は 2015 年の国連総会で制定された『世界津波の日』です。皆さんもネットなどでその由来などを調べてみるのも良いかもしれません。
- ・ 最後に、もしもの時に、自分自身のいのちを、そして他者のいのちを守れることを願います。以上で私の話は終わります。